

KO-RA YUSAN  
**高良遊山**

～ 絵葉書で観光しませう～



◆ 名所解説

近代の絵葉書や観光案内をみると、高良山の名所には、時代によって呼称が変化したり、改称されたりしたものが  
あることが分かります。ここでは、混乱を避けるため、基本的に現在の名称や通称を用いて、名所の解説を行います。

①一ノ鳥居

石造の大鳥居で、承応3年(1654)に久留米藩2代藩主有馬忠頼により寄進されました。⑦高良大社の本殿・幣殿・拝殿とともに、国の重要文化財に指定されています(昭和47年5月15日指定)。

②御手洗池

高良の神が口をそそぎ、手を洗われたという伝説から、御手洗池と呼びます。現在の石橋は、享和3年(1803)築造で、安永2年(1773)銘の擬宝珠(※1)を再利用しています。福岡県指定有形文化財(平成14年4月5日指定)。

③旧宮司邸・蓮台院御井寺跡

江戸時代以前、高良山は神仏習合の霊山として信仰を集め、ここが高良山仏教の中心でした。明治2年(1869)の廃仏毀釈によって座主(※2)が廃止された後は、宮司邸として使われていました。

④大学稲荷神社

高良山の稲荷信仰は室町時代かそれ以前からといわれます。明和8年(1771)山城伏見稲荷神社より大学の称号を持つ稲荷社を高良山内の愛宕山に勧請、慶応2年(1866)現在の社地が開かれ、明治8年(1875)に拝殿が建立されました。

⑤高良山神籠石

鬼が築いたという伝説もある、7世紀頃の古代山城遺跡です。高良大社背後の本宮山頂の東側を最高地点(標高251m)として、山の南側を順次下り、西裾の二つの谷を渡って、1.5kmほど列石が連なります。国指定史跡

⑥三ノ鳥居・本坂

この鳥居は、以前は二ノ鳥居と呼ばれていましたが、昭和44年(1969)に御手洗池上方の石段参道と車道が分岐する所に鳥居が建立され、そこが二ノ鳥居となったため、現在は三ノ鳥居と呼ばれています。

⑦高良大社社殿

神社の創建は、履中天皇元年(400年)と伝わります。正史上初めてその名が見えるのは、延暦14年(795)です。現在の社殿は、久留米藩3代藩主有馬頼利の寄進により、明暦2年(1656)から寛文元年(1661)にかけて造営されました。

⑧奥宮

奥ノ院ともいいます。白鳳7年(678)に開山した高良山初代座主隆慶が、桜の木に毘沙門天王の姿を刻み、奉安したと伝わり、かつて毘沙門堂がありました。「毘沙門岳」「毘沙門谷」の地名はこれに因みます。

⑨味水御井神社・朝妻の清水

高良大社の末社の一つ。朝妻の清水は、神功皇后が水を所望した折に湧き出したという伝説があります。磐井(岩井)・徳間の清水とともに、「御井」の地名の元になったといえます。高良山十景の一つ。

◆ 掲載絵葉書リスト (名称/発行年代)

- ①-1 筑後国幣大社高良神社一ノ鳥居 大正～昭和戦前時代
- ①-2 筑後国幣大社高良神社一ノ鳥居 大正～昭和戦前時代
- ② 筑後国幣大社高良神社御神池御手洗橋 大正～昭和戦前時代
- ③ 筑後高良神社阪下ノ景是ヨリ御本殿四丁 右大学稲荷宮五丁 大正～昭和戦前時代
- ④ 筑後高良山境内大学稲荷大明神御本殿 大正～昭和戦前時代
- ⑤ 筑後高良神社境内神籠石 大正～昭和戦前時代
- ⑥-1 (筑後)高良神社本坂石段 大正～昭和戦前時代
- ⑥-2 国幣大社 高良神社二ノ鳥居 昭和戦前時代
- ⑦-1 (筑後)高良神社前面 明治～大正時代
- ⑦-2 筑後名勝(第一集) 高良玉垂宮(三井郡) 明治時代
- ⑦-3 Korasantempel, Kurume. 大正3～7年頃
- ⑧ 筑後高良山奥ノ院 大正～昭和戦前時代
- ⑨ 国幣大社高良神社朝妻頓宮 大正～昭和戦前時代

表紙 国幣大社高良神社全景 吉田初三郎 昭和戦前時代

※1 伝統的な建築物の装飾。橋や寺社の階段や廻縁の高欄の柱上に設置される。  
※2 住職最上位を示す仏教用語 高良山の社寺を統括した役職

平成31年3月21日

◆発行  
久留米市教育委員会

◆編集協力  
高良山観光ボランティアガイドの会

◆問い合わせ

久留米市 市民文化部 文化財保護課

TEL 0942 (30) 9322

FAX 0942 (30) 9714

E-mail bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp